

日本株セレクト・オープン “日本新世紀”

日本株スタイル・ミックス・ファンド

追加型投信／国内／株式

作成対象期間：2020年6月11日～2020年12月10日

第 42 期 決算日：2020年12月10日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、バリュー、グロース、小型の3つの投資スタイルへの投資比率を経済・市場環境分析に基づき決定することにより、わが国の株式の指標である東証株価指数（TOPIX）を上回る投資成果をめざして運用を行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第42期末（2020年12月10日）

基準価額	10,792円
純資産総額	899百万円
騰落率	+14.8%
分配金合計 ^(*)	800円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。


閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第42期：2020年6月11日～2020年12月10日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第42期首	10,095円
第42期末	10,792円
既払分配金	800円
騰落率	14.8%
(分配金再投資ベース)	

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ14.8%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。

ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（9.3%）を5.5%上回りました。

基準価額の主な変動要因**上昇要因**

海外における新型コロナウイルスのワクチン開発に関する報道などを受けた経済正常化への期待などから国内株式市況全体が上昇したことや日本株グロース・ファンド・マザーファンド受益証券（以下、グロースマザー）、日本株バリュー・ファンド・マザーファンド受益証券（以下、バリューマザー）、日本・小型株・ファンド・マザーファンド受益証券（以下、小型株マザー）の上昇が基準価額の上昇要因となりました。

下落要因

国内外における新型コロナウイルスの新規感染者数の再拡大などを背景に一時的に国内株式市況全体が下落したことが基準価額の一時的な下落要因となりました。

組入ファンド	騰落率	組入比率(対純資産総額)
日本株グロース・ファンド・マザーファンド	22.7%	45.7%
日本株バリュー・ファンド・マザーファンド	8.4%	41.2%
日本・小型株・ファンド・マザーファンド	17.8%	12.8%

※ベンチマーク（ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標）は、東証株価指数（TOPIX）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

※ベンチマークは、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

2020年6月11日～2020年12月10日

1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬	85	0.825	(a) 信託報酬 = 期中の平均基準価額 × 信託報酬率 × (期中の日数 ÷ 年間日数)
(投 信 会 社)	(40)	(0.385)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(40)	(0.385)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(6)	(0.055)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	5	0.050	(b) 売買委託手数料 = 期中の売買委託手数料 ÷ 期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(株 式)	(5)	(0.050)	
(c) その他費用	0	0.001	(c) その他費用 = 期中のその他費用 ÷ 期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	90	0.876	

期中の平均基準価額は、10,356円です。

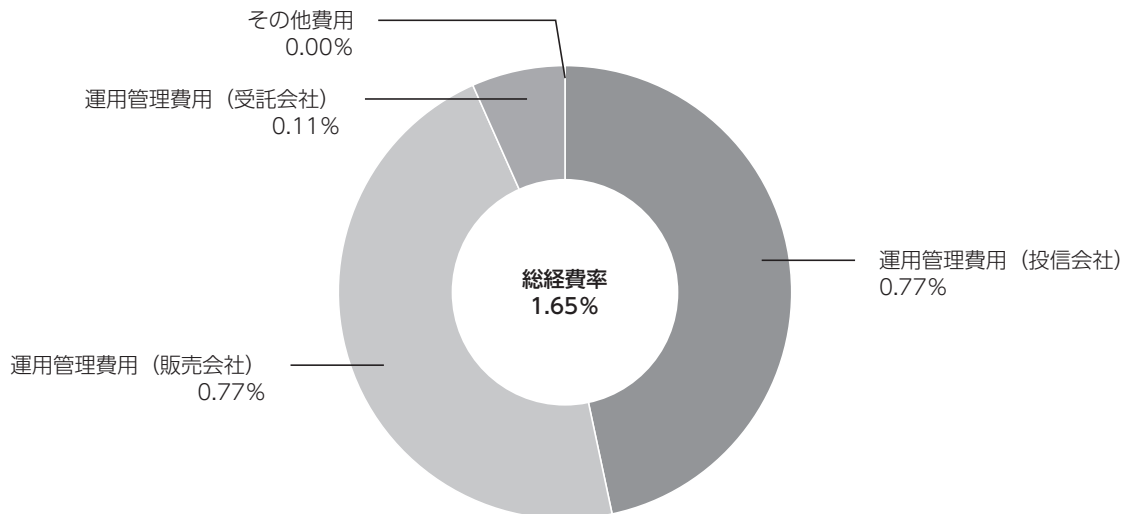
- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

- (注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**総経費率（年率）は1.65%**です。



(注) 費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

2015年12月10日～2020年12月10日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額、ベンチマークは、2015年12月10日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2015/12/10 期初	2016/12/12 決算日	2017/12/11 決算日	2018/12/10 決算日	2019/12/10 決算日	2020/12/10 決算日
基準価額 (円)	10,776	10,404	11,875	10,045	10,511	10,792
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	1,300	0	600	800
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	-3.5	27.3	-15.4	10.6	10.3
ベンチマーク騰落率 (%)	—	-0.6	18.4	-12.3	8.2	3.2
純資産総額 (百万円)	1,157	1,059	1,198	1,078	891	899

※ファンド年間騰落率は、ベンチマーク年間騰落率と比較するため、収益分配金（税込み）を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

ベンチマークは、東証株価指数（TOPIX）です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

第42期：2020年6月11日～2020年12月10日

投資環境について

▶ 国内株式市況

国内株式市況は上昇しました。

期首から2020年7月下旬にかけては、世界各国による積極的な金融政策や財政政策などがサポート要因となる一方で、国内外における新型コロナウイルスの新規感染者数の再拡大などが懸念要因となり、国内株式市況は上値の重い展開となりました。

8月上旬から期末にかけては、安倍首相の辞任を受けて新たに誕生した菅政権が現行の経済政策を概ね継続するとの見方から安心感が高まったことや、海外における新型コロナウイルスのワクチン開発に関する報道などを受けた経済正常化への期待などから、国内株式市況は上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

▶ 日本株スタイル・ミックス・ファンド

当ファンドは、期を通じて3つのマザーファンドの合計組入比率を概ね高位で維持しました。

スタイル（バリュー、グロース）の投資配分は、期を通じて概ねバリューのオーバーウェイトを継続しました。各国の財政・金融政策の発動による大規模な景気刺激策に加え、先進国では企業の生産活動再開や都市封鎖の解除もあって景気が

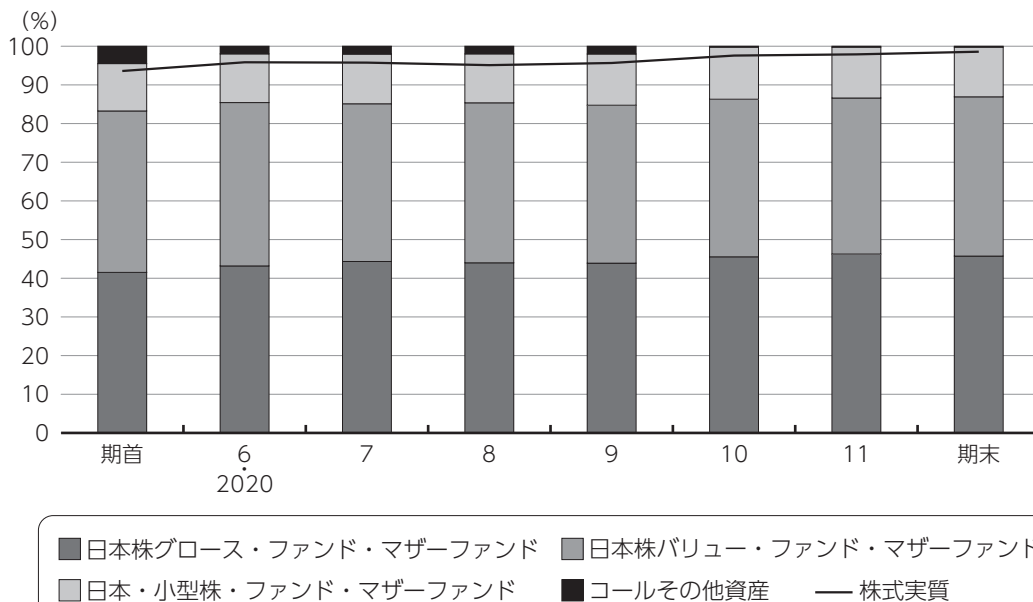
緩やかな回復に向かいつつある中で、割安感の強まったバリューの巻き戻しに備えたためです。

サイズは、期を通じて大型のややオーバーウェイトを継続しました。バリュエーション面で割安感が強まった大型株優位の展開を想定したためです。

期末現在の組入比率は、グロースマザー45.7%、バリューマザー41.2%、小型株マザー12.8%としています。

(ご参考)

■組入比率の推移（月末ベース）



▶ 日本株グロース・ファンド・マザーファンド

個別銘柄の選別においては、収益の成長力が市場平均と比べて高いと判断される銘柄の中から、主力事業で優位性を持ち、ニュービジネスに対する取り組み姿勢等に勝る銘柄を厳選し投資を行いました。成長シナリオの変化、定性評価の修正、新規投資銘柄候補との相対比較等を勘案し、組入銘柄の入れ替えを適宜行いました。

組入銘柄数は概ね56～59銘柄程度で推移させました。キャッシュレス決済市場拡大の恩恵を受ける「GMOペイメントゲートウェイ」などを新規に組み入れました。一方、経済環境の悪化から業績成長の鈍化が懸念される「アサヒグループホールディングス」などを全株売却しました。

期首・期末時点の比較では8銘柄を新規に買い付け、5銘柄を全株売却しました。

▶ 日本株バリュー・ファンド・マザーファンド

RUSSELL/NOMURA Large Cap Value インデックスの銘柄群の中から割安と判断される銘柄に厳選して投資することにより、値上がり益の獲得をめざし、銘柄選定を行いました。また、組入銘柄・組入比率は、保有している不動産等の含み損益を考慮した独自の修正株価純資産倍率（PBR）を基にセクター内比較等を行い、その上で、経営陣が保有資産の価値を最大化しようとしているかや同一業種内における企業の優位性など定性面の評価などを総合的に考慮して決定しました。

組入銘柄数は40～43銘柄で推移させました。株価水準と企業の競争力や業績の変化などを勘案し、より割安と判断される銘柄への入れ替えを機動的・継続的に行いました。当期では、「ソニー」や「アサヒグループホールディングス」など12銘柄

を新規に組み入れました。また、「日立製作所」や「三井不動産」など9銘柄を全株売却しました。

▶ 日本・小型株・ファンド・マザーファンド

国内小型株式のうち独自の技術やノウハウを有し、中長期的な成長が見込める企業などを中心に選別投資を行いました。

組入銘柄数は概ね80～90銘柄程度で推移させました。ファンダメンタルズの変化や新規投資候補銘柄との相対比較等を勘案し、適宜銘柄入替を行いました。

期首、期末の比較では、eギフトサービスを展開する「ギフトィ」やクラウド型POSレジを提供する「スマレジ」など29銘柄を新規に組み入れました。一方、ECプラットフォームを手掛ける「BASE」やシステムインテグレーターの「日本ユニシス」など27銘柄を全株売却しました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

- ▶ **日本株スタイル・ミックス・ファンド**
 ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率（9.3%）を5.5%上回りました。

グロースマザー、バリューマザー、小型株マザーはそれぞれベンチマークをアウトパフォームしました。資産配分効果はスタイルはマイナス、サイズはややプラスとなりました。

- ▶ **日本株グロース・ファンド・マザーファンド**
プラス要因

業種配分要因：電気機器をベンチマークに対してオーバーウェイト、陸運業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことなどがプラスに寄与しました。

銘柄選択要因：「エムスリー」や「住友金属鉱山」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

業種配分要因：建設業や輸送用機器をベンチマークに対して概ねオーバーウェイトとしていたことなどがマイナスに影響しました。

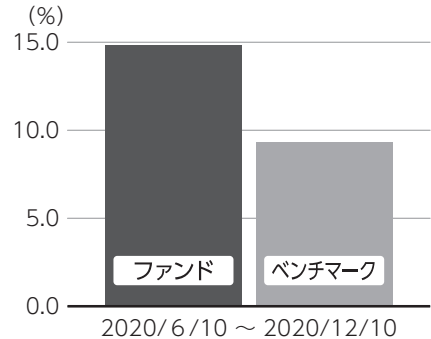
銘柄選択要因：「T I S」や「資生堂」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

- ▶ **日本株バリュー・ファンド・マザーファンド**
プラス要因

業種配分要因：海運業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことや銀行業をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

銘柄選択要因：「イビデン」、「日本通運」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

基準価額（ベビーファンド）と
 ベンチマークの対比（騰落率）



※ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

マイナス要因

業種配分要因：不動産業をベンチマークに対して概ねアンダーウェイトとしていたことや鉱業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択要因：「アイシン精機」、「メディカルホールディングス」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

▶ 日本・小型株・ファンド・マザーファンド**プラス要因**

業種配分要因：情報・通信業をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

銘柄選択要因：「BASE」、「HENNGE」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがプラスに寄与しました。

マイナス要因

業種配分要因：機械をベンチマークに対してアンダーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

銘柄選択要因：「ジャパンマテリアル」、「チームスピリット」をベンチマークに対してオーバーウェイトとしていたことがマイナスに影響しました。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第42期 2020年6月11日～2020年12月10日
当期分配金（対基準価額比率）	800 (6.901%)
当期の収益	243
当期の収益以外	556
翌期繰越分配対象額	2,477

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ 日本株スタイル・ミックス・ファンド

当面の株式市況は、各国の財政・金融政策の発動による大規模な景気刺激策に加え、新型コロナウイルスのワクチン実用化に向けた期待が高まっていることから、中長期的に堅調な推移を想定しています。このような見通しのもと、スタイルは割安株の巻き戻しに備えバリュー優位な展開を想定します。サイズは小型株に対して割安感が強まった大型株優位な展開を想定します。

過去においてスタイル・サイズともに循環していますが、2020年に入ってからではグロース優位の展開がより強くなったことから、バリューの割安感は強まっていると考えています。各国の株式、債券、為替市場の今後の展開やPBR面から割安な金融セクター（銀行業や保険業など）などの株価動向を見極めつつ、機動的な投資判断を行う方針です。

▶ 日本株グロース・ファンド・マザーファンド

マネジメント力、バリュエーション、中長期的な成長や収益力改善のためにどのような施策に取り組んでいるのかなどを精査し、強い競争力があり、中長期的な成長期待が持てる企業を中心に銘柄選別を行っていく方針です。

当面の株式市況は、新型コロナウイルス感染の再拡大による経済活動への悪影響や、米国の政権運営を巡る動向など、不透明要素が大きいことから方向感が出づらいう展開を想定します。しかし、新型コロナウイルスのワクチンへの期待が高まっていることや、再び各国が行動制限を行っていることもあり、次第に問題は沈静化していくと考えます。新型コロナウイルス問題が収束に向かうに伴い個人や企業の活動状況が正常化され、各国の経済対策も徐々に効果が出てくると考えることから、中期的に見れば再び堅調な経済環境に戻ると想定します。また、菅新政権においても今後様々な経済対策が期待できると考えます。引き続き、株価のバリュエーションなどに留意し企業調査を通じて銘柄の厳選を継続する所存です。

▶ 日本株バリュー・ファンド・マザーファンド

今後も大型・中型株式の中から、企業の資産価値や収益力などから判断して、株価が割安に放置されていると思われる銘柄に厳選して投資することで、中長期的にベンチマークを上回る投資成果をめざして運用を行います。

新型コロナウイルスワクチンの実用化に

向けた期待が高まっています。一方で足下では世界的に重症者数が再拡大しており、また、ワクチンが広く普及するには相応の時間を要することから、当面の経済の回復ペースは緩やかなものになると考えております。

こうした変化を見極め、企業の本質的な価値から判断してより割安と判断できる個別銘柄を選択していく方針です。

▶日本・小型株・ファンド・マザーファンド

今後も、主としてわが国の小型株式の中から、ボトムアップアプローチにより成長性が高いと判断される銘柄を厳選して投資することを基本とします。

小型株の2020年7－9月期決算は減益基調ながらも4－6月期より業績の改善傾向を示した企業が多くみられました。決算発表後の株価もまた堅調なものが多かったように感じられ、新型コロナウイルスの影響からは一旦は脱し始めている

ように思われます。国内、海外で感染者、重症者が再び拡大基調にあり注意が必要ですが、小型株市場は中長期では成長性の高い魅力ある市場と考えております。

また、小型株市場が上昇する中、中長期の成長が期待されるものの割安に放置されている銘柄も散見されていることも踏まえ、銘柄選別を強化する方針です。また、個別銘柄選別をコアの投資戦略としつつ、マーケット全体の方向性やセクター動向なども注視していく所存です。

日本の小型株市場はいまだ非効率的で、投資家に十分に認知されていない成長企業は多く存在すると考えており、こうした成長企業への投資を継続する方針です。今後も企業との直接取材を積極化するなど、個別企業の業績動向に焦点をあてた基本戦略であるボトムアップアプローチを通じて、成長企業への投資機会を積極的に探り、パフォーマンスの獲得を図る方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

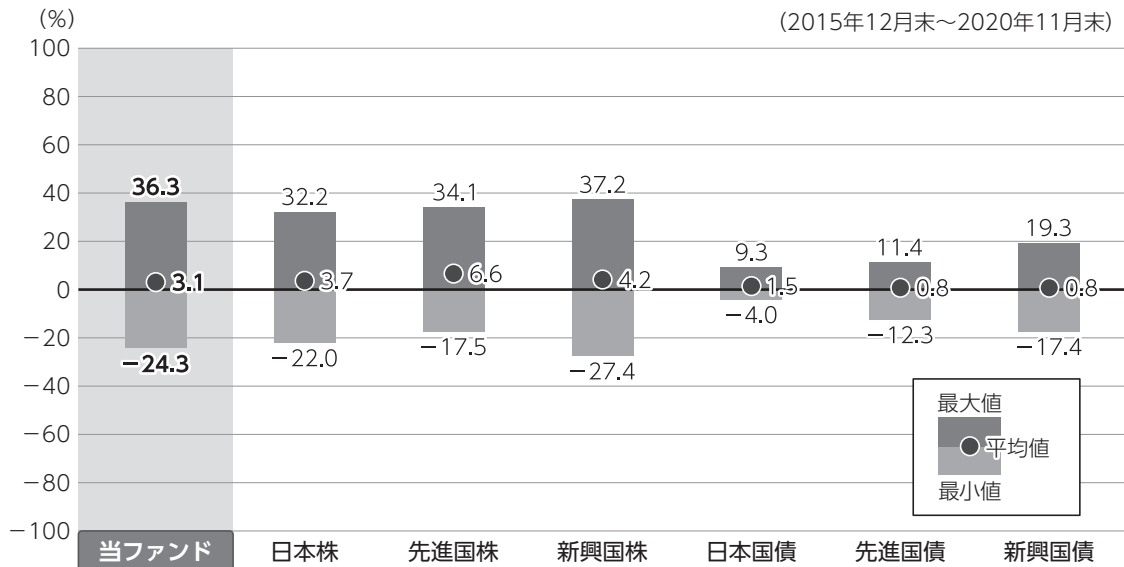
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2024年12月10日まで（2000年3月31日設定）
運用方針	東証株価指数（TOPIX）をベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。投資スタイル毎の組入比率は定量・定性分析をベースに決定することを基本とします。株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。
主要投資対象	<p>■当ファンド</p> <p>日本株バリュー・ファンド・マザーファンド受益証券、日本株グロース・ファンド・マザーファンド受益証券および日本・小型株・ファンド・マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。</p>
	<p>■日本株グロース・ファンド・マザーファンド</p> <p>わが国の株式を主要投資対象とします。</p>
	<p>■日本株バリュー・ファンド・マザーファンド</p> <p>わが国の株式を主要投資対象とします。</p>
運用方法	<p>■日本・小型株・ファンド・マザーファンド</p> <p>わが国の株式を主要投資対象とします。</p>
	わが国の株式を実質的な主要投資対象とし、バリュー、グロース、小型の3つの投資スタイルへの投資比率を経済・市場環境分析に基づき決定することにより、値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2015年12月から2020年11月の5年間ににおける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2020年12月10日現在

▶ 当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：3銘柄)

ファンド名	第42期末 2020年12月10日
日本株グロース・ファンド・マザーファンド	45.7%
日本株バリュー・ファンド・マザーファンド	41.2%
日本・小型株・ファンド・マザーファンド	12.8%

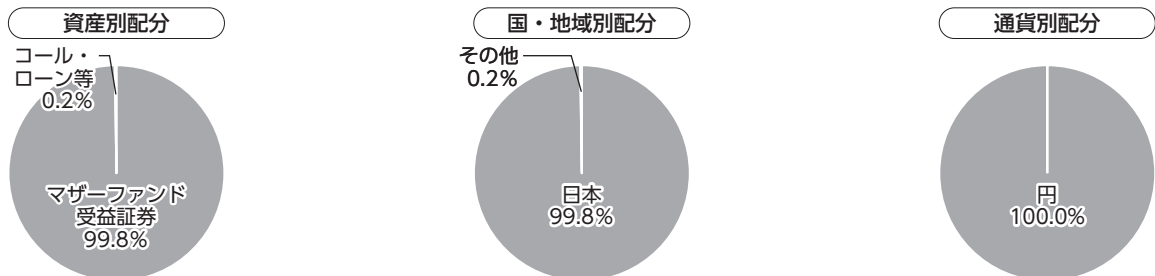
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各マザーファンドの評価額の割合です。

純資産等

項目	第42期末 2020年12月10日
純資産総額 (円)	899,781,912
受益権口数 (口)	833,719,072
1万口当たり基準価額 (円)	10,792

※当期中において追加設定元本は10,882,192円
同解約元本は 28,187,826円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余剰資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

355009

2020年12月10日現在

組入上位ファンドの概要

▶ 日本株グロース・ファンド・マザーファンド

基準価額の推移

2020年6月10日～2020年12月10日



1万口当たりの費用明細

2020年6月11日～2020年12月10日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a) 売買委託手数料	5	0.039
(株 式)	(5)	(0.039)
合計	5	0.039

期中の平均基準価額は、12,950円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：59銘柄)

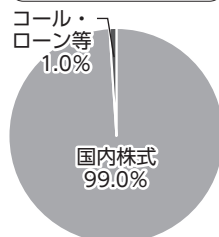
	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	ソニー	株式	日本	電気機器	6.1
2	東京エレクトロン	株式	日本	電気機器	4.8
3	SUMCO	株式	日本	金属製品	3.9
4	日本電産	株式	日本	電気機器	3.8
5	第一三共	株式	日本	医薬品	3.6
6	キーエンス	株式	日本	電気機器	3.6
7	ソフトバンクグループ	株式	日本	情報・通信業	2.8
8	資生堂	株式	日本	化学	2.8
9	アドバンテスト	株式	日本	電気機器	2.7
10	SMC	株式	日本	機械	2.4

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

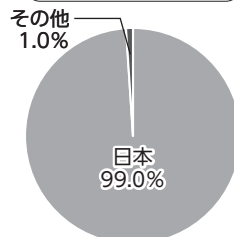
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

種別構成等

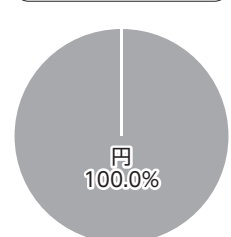
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

355011

2020年12月10日現在

組入上位ファンドの概要

▶ 日本株バリュー・ファンド・マザーファンド

基準価額の推移

2020年6月10日～2020年12月10日



1万口当たりの費用明細

2020年6月11日～2020年12月10日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a) 売買委託手数料 (株 式)	14 (14)	0.054 (0.054)
合計	14	0.054

期中の平均基準価額は、25,796円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：43銘柄)

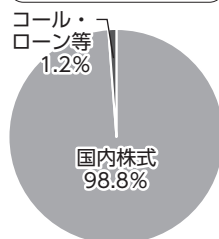
	銘柄	種類	国・地域	業種／種別	比率(%)
1	三菱UFJフィナンシャル・グループ	株式	日本	銀行業	5.4
2	本田技研工業	株式	日本	輸送用機器	4.1
3	SBIホールディングス	株式	日本	証券、商品先物取引業	4.0
4	伊藤忠商事	株式	日本	卸売業	4.0
5	日本電信電話	株式	日本	情報・通信業	4.0
6	第一生命ホールディングス	株式	日本	保険業	3.9
7	ソフトバンクグループ	株式	日本	情報・通信業	3.6
8	ソニー	株式	日本	電気機器	3.4
9	アイシン精機	株式	日本	輸送用機器	3.3
10	武田薬品工業	株式	日本	医薬品	3.2

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 ※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

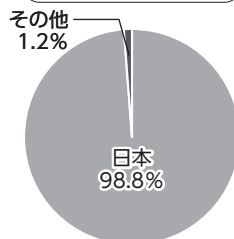
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

種別構成等

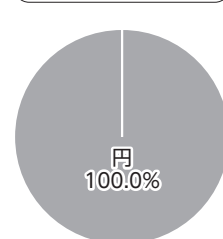
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
 ※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

355013

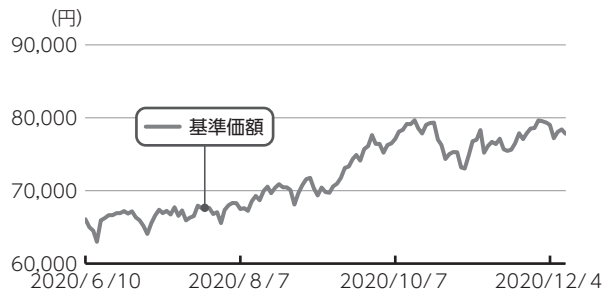
2020年12月10日現在

組入上位ファンドの概要

日本・小型株・ファンド・マザーファンド

基準価額の推移

2020年6月10日～2020年12月10日



1万口当たりの費用明細

2020年6月11日～2020年12月10日

項目	当期	
	金額(円)	比率(%)
(a)売買委託手数料 (株式)	59 (59)	0.081 (0.081)
合計	59	0.081

期中の平均基準価額は、72,092円です。

※項目の概要については、前記「1万口当たりの費用明細」をご参照ください。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：88銘柄)

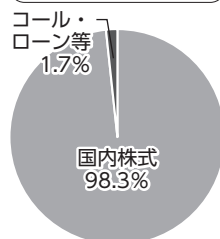
	銘柄	種類	国・地域	業種／種別	比率(%)
1	扶桑化学工業	株式	日本	化学	2.5
2	トーカロ	株式	日本	金属製品	2.5
3	田岡化学工業	株式	日本	化学	2.4
4	MARUWA	株式	日本	ガラス・土石製品	2.3
5	日本エム・ディ・エム	株式	日本	精密機器	2.3
6	ベイカレント・コンサルティング	株式	日本	サービス業	2.3
7	RS Technologies	株式	日本	金属製品	2.1
8	日本瓦斯	株式	日本	小売業	2.0
9	ジャパンマテリアル	株式	日本	サービス業	2.0
10	ギフティ	株式	日本	情報・通信業	2.0

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 ※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

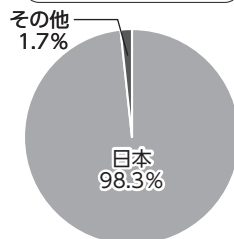
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）でご覧いただけます。

種別構成等

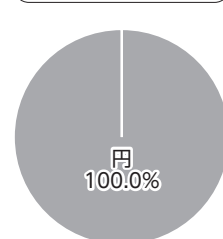
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
 構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
 ※原則、国・地域については、法人登録地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ ファンドのベンチマークである『東証株価指数（TOPIX）』について

東証株価指数（TOPIX）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す代表的な株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値及びそこに含まれるデータの正確性、完全性を保証するものではありません。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、わが国の株式市場全体の値動きを表す株価指数です。TOPIXに関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

●MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI（国債）

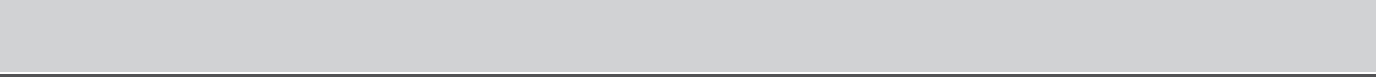
NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。





三菱UFJ国際投信